

## 第3回海陽町学校のあり方検討委員会

### 議事録

日時：令和4年5月30日（月） 10:00～11:30

場所：海陽町教育委員会 会議室

出席者：委員16名中12名出席（別紙名簿参照）

事務局：（担当課）海陽町教育委員会 三浦教育長 森崎教育次長 浦川主査  
（受託者）リージョナルデザイン株式会社 安孫子 佐々木 伊藤

#### ■会議次第

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員紹介(自己紹介)
- 4 議事
  - (1) 適正規模の配置
  - (2) 学校の適正配置
  - (3) アンケート調査について
  - (4) その他（今後のスケジュール）
- 5 閉会

#### 議事1 適正規模の配置

事務局・森崎教育次長及び三浦教育長の説明

（登井委員長）

ありがとうございました。事務局の森崎さんと教育長の三浦さんから説明がありました。この説明につきまして何かご質問はございますか。

1回目・2回目に参加されていた先生方、委員の方も結構です。まだ少しわからないということがありましたら発言していただくとありがたいと思います。

確認ですが、再編するといいながら、話し合いの中で現状維持についても出てきたら、現状維持も考えていいということなののでしょうか。今、説明の中で2つの学校を1つにしようという話が少しあったと思いますが、皆さんの話し合いの中で「いやいや、現状維持がいいのではないか」という話が出てきた場合はそれでいいのではないかと1回目・2回

目の検討委員会の話し合いがなされたと思います。以前、谷口委員が「統合が進んでいくのか」とおっしゃった時、「いやいや、そうではなく皆さんの意見をしっかりと聞きたいのです」と話をしたと思いますが、間違いはありませんか。

(事務局・三浦教育長)

この学校のあり方検討委員会は、さきほど設置の理由等を説明いたしましたが、今後基本的には児童数・子どもの数はどんどん減っていきます。だいたい毎年30人程度海陽町内で生まれています。海陽町内すべてです。子どもが年々減少傾向にあると見込まれています。今回このような状況を踏まえた上で、よりよい教育環境を維持していかなければなりません。もちろん、統合・再編ありきの検討ではないと思います。ただし、現状維持であったとしても「こういう方策で」というような形で答申していただかないと、教育委員会の今後の基本方針の立て方について「ただ」いうのではなく、そういう方策を示した上でという形が欲しいと考えています。

もちろん先ほど説明がありましたが、財政面であったり、一番は「子ども」ですから、子どものことを第一に考えていただきたいということです。それと、防災面です。防災面を含めまして、校舎の維持など、広くこの辺りを含めた形でいろいろご意見を出していただきたいと考えています。

ただ、統合・再編に突き進んでいくだけではありません。ですから、そういう方向性ももちろん出していただいてもいいと思います。

今年度中にまとめていただいて、先ほど登井委員長がおっしゃられたように、教育委員会への答申という形でよろしく願いいたします。

(登井委員長)

ありがとうございました。委員の皆さん、何かご質問・ご意見ありましたら出してください。よかったら後でもいいですし、先に次の議題の説明をしてもらって、後で時間をとりましょうか。

(井口委員)

すみません。何年先を見据えるというはありますか。5年先なのか、10年先の方針なのでしょうか。恐らく、この中でいろいろと町の行財政プランなどにのっとった形になっていると思いますが、今考えるのは、何年先のことなのでしょうか。

(事務局・三浦教育長)

今、ご意見いただきましたが、本当にすぐ目の前の話ではなくて、10年・20年後を見据えた形で考えています。少子化がどんどん進んでいく中で、そのあたりを見据えたうえで検討していただきたいと思います。例えば、現状維持で3年・4年経ったとして、その時にさらに子どもが減っているの今後どうしますかと検討委員会を開くような繰り返しでは駄目ですので、長い10年・20年・30年といった先を見据えた検討が必要になります。

そして、教育委員会の方も答申をいただいた中で順次、この年代ではこういうことを考えていかなければならないという方針を作っていきたいと思います。5年後について考えてしまいますと、5年後のことだけ考えてしまいます。教育委員会につきましても、そのくらいの先を見据えた形で方針を立てていきたいと考えています。その辺りも含めてよろしく願います。

(登井委員長)

ありがとうございました。5年後ではなく、もう少し先を見据えて話し合いをしていただきたいと教育長からもお願いがありました。なかなか数字につきましては、子どもたちがどれだけ減っていくのか、今現在については出生数等についてはしっかりとつかめていますが、その後どうなっていくかは予測が付きません。そのような現状で話し合いをしていかななくてはなりません。非常に難しい話し合いだなと思います。大体の推定で、現状維持でいくのか、減っていくのか、増えるのかなどを見据えながら話をしていかなければなりません。ある程度、「このようになった場合、統合に向けてもっていかなければならないのではないか」ということも少し出てくるのではないのでしょうか。先ほどの複式学級の話で、3つになったら大変学校として運営や学級経営が難しいとお話がありました。3つになるということは、1・2年生が複式、3・4年生が複式、5・6年生が複式になるということです。海部小学校では1年生が1学級、2・3年生で1学級、4・5年生で1学級、6年生が単独という4つのクラスができていて、特別支援学級が2つあり、合計6学級です。これまで何年かこの状態がずっと続いてきていて、今後もしばらくの間この形でいくと思われま。海部小学校の場合は、書類上このところずっと複式学級がありますが、県より加配をいただいて、ずっと続けて単学級で進めていくことができています。実際、複式学級で授業を進めているわけではないということです。それをどう捉えていくかです。3つになるということは加配がつかないということです。その時に複式学級で担任が一人で、1・2年生、3・4年生、5・6年生をみていかなければならないというようなこと

になっていくわけです。そのようなことを想定したうえで、話し合いをしていけたらなと思います。穴喰小学校につきましても、いずれ複式学級が出てきますとおっしゃっていたので、その辺りのことも考えてご意見をいただければと思います。

(伊丹委員)

穴喰中学校ですが、中学校が複式学級になった場合、どのような組み合わせになるのでしょうか。

(事務局・三浦教育長)

組み合わせにつきましては、2つの学年で合わせて8人を超していかないといけません。児童・生徒数の普通学級と特別支援学級がありますので、はっきりいうことは難しいです。穴喰中学校で出てくる・出てこないについては、今の生徒数だけならば出てきますので、令和16年までは複式学級になる心配は今のところありません。出てきた場合には、2つの学年を合わせた形で8人を超すということです。それに合わせた形になっていくと思います。複式学級になると学級数も減になります。したがって、学級数に応じて教員の方が決まりますので、教員の数も減ります。結果、すべての教科に対する先生、免許を持った先生がなかなか配置されないというような状況になります。これから先の小学校の入学者数と中学校は連動していますので、その辺りがどちらにいくかだと思います。

(登井委員長)

中学校ではしばらくの間、複式はないということでしょうか。

(角田委員)

複式学級というのが、いまいち少しわかりません。海部小学校はそうになっていますが、それぞれの学年の教室で授業を行っていますよね。これが本当に複式になると、例えば、1・2年生、3・4年生、5・6年生が、一つの教室でそれぞれ授業を行うことになるのでしょうか。

(登井委員長)

早く言えば、1つの教室で、1年生は前を向いて、2年生は後ろ側を向いています。そして、担任がこちらで1年生の授業をしていたら、2年生は自分たちで勉強しています。授業の途中で1年生に課題を与え自習をさせると、担任は後ろ側へ行って2年生の授業をす

るというのが、今まで見てきた複式学級です。

(事務局・三浦教育長)

担任が一人で、複数の学年の授業を同時に受け持つことになります。

(角田委員)

ということは、現状のような細かなそれぞれの児童への対応は出来なくなる可能性が大きくなるのでしょうか。

(登井委員長)

自分は経験したことはありませんが、本当に先生の負担が非常に大きいと思います。両方の学年の勉強をして、両方自習をさせてという準備物も倍かかります。本当に先生の負担が大変だなと実際見させていただいて感じました。皆津委員、実際に見られたことはありますか。

(皆津委員)

複式はありません。

(角田委員)

ある程度高学年であれば、片一方話を聞いている間にもう片方は自習を行うことができると思いますが、例えば1・2年生で、2年生の授業をしている間に1年生は自習をしていなさいというのは、なかなか難しい気がします。

(登井委員長)

自分がお話しするのは僭越ですが、ある町は全部複式学級ですが町費の先生を入れることで、書類上は複式学級ですが、町費の先生がサポートすることで教育がスムーズに行くようにしていたというような事例もあるようです。

(事務局・三浦教育長)

県も複式学級を解消するように教員を余分に入れていますが。海部小学校は、1人入れていただいています。先ほどの話で、3つ複式学級を持った場合、それが全て解消できるような先生はいただけません。それではちょっと厳しくなります。

(登井委員長)

複式学級が2つであれば、1人は加配してくれますが、もう1人は足りないなので、教頭先生に担任をしてもらうということで対処することになります。

(事務局・三浦教育長)

複式学級を行うと、先生の数が少なくなりますので、きめ細かな学習活動ができなくなります。そのために町費の教員を配置しています。

(登井委員長)

他に何かご質問等ございませんか。ここで先へ進みまして、また後で戻ってもいいかなと思いますので、先に進めても構いませんか。

## 議事 2 学校の適正配置

事務局・森崎教育次長の説明

(登井委員長)

ありがとうございました。早く言えば、どこに学校があるのかということで、小学生で4 km 以内、中学生は6 km 以内です。バスを使う場合は、おおむね1時間となっています。資料を見ますと、すごく遠いところがあるなと思います。

(事務局・森崎教育次長)

スクールバスの費用費について、先ほど約2,000万円かかっているとご説明しましたが、資料16ページに一人あたりの費用も含めて添付しています。

(登井委員長)

どうでしょうか。

(谷本委員)

中学生はスクールバスで登校している子はいませんか。中学生になったら、もうスクールバスの費用はかかっていませんか。

(事務局・森崎教育次長)

中学生については、スクールバスではなく、町営バスを利用しています。

(事務局・浦川主査)

定期代は町が負担しています。

(谷本委員)

中学生の定期代の負担分は、この資料の数字に入っていますか。

(事務局・浦川主査)

入っていません。

(事務局・三浦教育長)

小学校4 km と中学校6 km を超えると通学補助があります。例えば、町営バスの定期券や自転車で通う生徒には自転車補助を出しています。

(伊丹委員)

地図の一番左下に「穴喰小⇒海南小」とありますが、これは何ですか。

(事務局・森崎教育次長)

これは参考です。もし最終的に小学校1校、中学校1校の体制になった場合、スクールバスの運行を穴喰小学校から海南小学校にまで延長すると、これだけの運行距離になるということです。

(登井委員長)

穴喰から海部まで全部乗せることになったら、とても大変だろうと思います。

(角田委員)

穴喰小学校から海南小学校に送迎する児童数は、資料を見る限り15人なのですね。

(事務局・森崎教育次長)

これは、宍喰小学校の現状の数字を入ただけです。通っている児童がきたらという仮定での15人になります。

(登井委員長)

海部小学校も、再編・統合となった場合、全員スクールバスを利用することも考えられるし、宍喰小学校も遠くへ行かなければならなくなれば、スクールバス1台ではなく2台など、かなりな台数が必要となってくるということですよ。

(事務局・三浦教育長)

例えば、中学校が1校になった場合、例えば宍喰や海部からきた場合には、宍喰中についてはスクールバスを動かさなくてはいけない状況になると思います。

(登井委員長)

その辺りも考え合わせて、町の学校のあり方をどうしていくのかということをお委員の皆さんにお考えいただけるとありがたいと思います。それでは次にいきます。

### 議事3 アンケート調査

事務局・森崎教育次長の説明

(登井委員長)

急にこれを検討してほしいといわれても、なかなか難しいと思います。また、委員の皆さんもお忙しく、十分資料に目を通されていない方もいらっしゃると思います。トイレ休憩をはさみますので、その間に目を通してください。11時10分になったら会を再開します。

—休憩—

(登井委員長)

時間になりましたので、「学校のあり方に関するアンケート」調査について、何かご質問はございませんか。

(伊丹委員)

これは、そのままアンケートするのでしょうか。



(登井委員長)

思ったことをおっしゃってください。リージョナルデザインの方がまた考えてくださると思います。

(伊丹委員)

問8に「適正規模に満たない小・中学校（小規模校といいます）」と書かれていますが、恐らくアンケートを配られた方には聞き慣れない言葉だと思います。「適正規模」の説明であったり、「小規模校」のメリット・デメリットのようなものを注釈に入れる方がよいと思います。アンケートを配られた方が、具体的に考えることができるのではないかと思います。

(登井委員長)

ありがとうございます。私も質問しようと思っていたことですが、「適正規模」というのは、我々もわかりません。ここは押さえておかなければならないところだと私は思います。やはりここは、説明や注釈がいるのではないのでしょうか。どうでしょうか。

(福田委員)

問6と問7で、小学校と中学校で同じような問いがありますが、気になるところは、回答選択肢「1.家庭教育の支援を行う」場所と捉えているところです。これは、学校教育というのは除いてということだろうと思いますが、学校サイドとしては気になる文言です。皆さん一緒だと思います。それと、その後の「2.放課後や週末等の子どもたちの活動拠点（居場所）を提供する」についても、少し思うところがあります。学校サイドとしては引っ掛かります。それから「6.地域の防災拠点として学校施設を利用する」です。学校を防災拠点としてとりあげているところです。これは実際に、海南小であればイエローゾーンにありますし、海部小であればレッドゾーン、突喰も同じような感じでレッドゾーンにあって、もうすでに避難所としては機能しない学校も実際にはあります。少し高台にあって、そこへ行って避難したら絶対に安全だというのが防災拠点だと思います。海陽中学校は、海岸沿いにあります。ここには津波がくるわけです。そこが防災拠点になるのでしょうか。突喰中学校にしても、この間の線状降水帯でも完全に孤立化してしまいました。そこが防災拠点になるのかを学校サイドとして問いたいです。この問いを入れているということは、これは裏には高台移転があるのかと考えてしまいます。どこかの山を切って、学校を統合

して、そこに小・中学校をつくってしまうということが裏にはあるのかなと捉えてしまいます。ですから、そのような思惑が感じられるのはやめた方がいいのかなと個人的に思います。問6、7、8は、少し微妙な部分が含まれていますので、考え直すべきでないかなと思います。

(登井委員長)

ありがとうございました。意見を言っていていいですか。私は「学校に求めるものは何ですか」と見た時、「学力の向上に決まっているじゃないか。なぜ回答選択肢に入っていないのか。」と思いました。そうしたら、教育長や次長が説明してくださって、それを外して質問を設定しているということでした。ある程度、このようなことも入れてもらった方がいいと思います。私が見たら、「学校に求めるものは、この回答選択肢の中にはない。」となって、「その他」のところに書いてしまう気がしますが、皆さんいかがでしょうか。

(事務局・森崎教育次長)

福田委員や登井委員長からもお話がありましたが、学校の目的というのは、当然その他で書いてしまうと、聞きたいことが聞けなくなります。「学力向上」といった大前提のことは含めていないことについて、注釈を入れるなど書き方の工夫でわかっていたら、今回のアンケートの趣旨を汲んでいただけるようなやり方について検討したいと思います。

(事務局・安孫子)

問8については、気になっていました。説明は必要ですが、その説明の仕方によっては誘導になってしまう部分もあろうかと思い、少しためらっていました。また、このアンケートについては、本来学校が持つべき教育のあり方は「教育振興基本計画」の中で聞いてきた経緯があります。そこを問うと、設問数が多くなり、目的が見えにくくなります。本来学校が持つべき教育のあり方はなくして、学校と地域のあり方、昨年度の2回の委員会の中でも、学校と地域のあり方について、地域からの視点でのメリット・デメリットを測るべきではないかと意見がありました。それに対しての方向性をみるために、アンケートの問6、問7を含めて案を作成しました。

(登井委員長)

ありがとうございました。もう少し設問を工夫していただくとありがたいと思います。

(事務局・三浦教育長)

本来学校教育が持つ学校の役割をアンケートで聞いては、そればかりで終わってしまいます。地域と学校の間関係を煮詰めたいという考えでアンケートをします。その辺りはまた、説明は必要だと思います。防災拠点については、本来役割として持つべきであり、それがあつて、意見が出てくるかもしれません。

(登井委員長)

もう一度集まっていたいただくのは大変です。今までの意見をリージョナルデザインの方にいいました。そして変更してくれます。このように変えましたよという皆さんへのお知らせは、どのような方法がいいでしょうか

(事務局・三浦教育長)

郵送でいかがでしょうか。

(登井委員長)

郵送で構いませんか。それでも意見があるようでしたら事務局に直接言っていただければと思います。

もう一つ構いませんか。私は問9を慌てて読んだので「現状維持」を考えている人はどこに○をつけたらいいかわかりませんでした。私は教育長から「そう思わない」に○をつければいいと教わりましたが、これはわかりにくいなと思います。工夫が必要ではないでしょうか。

(角田委員)

問12は、そのまま読んでいって選択肢4「存続・新設される学校の建物や施設の整備」を見ると、「新しい学校ができるのか」と思ってしまうのですが、どうなのでしょう。

(登井委員長)

そう言われれば、そう見えますね。

(事務局・安孫子)

資料にもありますが、財政の改革プランと学校施設の長寿命化計画の中で、財政的な面で町が考えている学校の維持、建物そのものの維持の方法が書かれています。その費用と

というのが、改築に関わるだけの費用です。違う観点からしますと、17年改築の費用を続けるのではなく、耐久年度が60年くらいになっているわけですから、割り切って新規に建て替えることも一応はありえるのではないかと考えています。

(角田委員)

アンケートには、今回の資料も付けるということですか。

(事務局・森崎教育次長)

アンケートだけです。

(角田委員)

アンケートだけですと、今説明していただいたことは記入者にはわかりません。

(谷口委員)

新しい時代に対応した教育活動が日々経過していく中で、財政が厳しくなって現状維持が難しいということで、このアンケートも必要になっているということを少し書くことができればいいなと思います。各年代ごとに意見が違うと思いますが、年代層はどうなりますか。

(事務局・森崎教育次長)

全体で500人無作為抽出します。10～20代は50人、それ以降は各年代に合わせて100人、そして70代以上は50人、全体で500人です。無作為というのは、各年代からの人数配分をしたうえで、リストから無作為抽出をします。

(谷口委員)

委員はあたるかどうかわかりませんか。

(事務局・浦川主査)

保護者はあたります。

(谷口委員)

町民の方は、あたらない方もいらっしゃいますか。

(登井委員長)

この委員会のメンバーは、あたるかどうかはわかりませんね、抽出ですから。どのくらいの回収率を想定していますか。

(事務局・安孫子)

町民の方は4割で、未就学児と保護者は100%を想定しています。

(登井委員長)

保護者は、現在どのくらいの数になりますか。

(事務局・森崎教育次長)

約500世帯です。

(事務局・三浦教育長)

先ほどの問12の「存続・新設される学校の建物や施設の整備」について、この委員会の中で例えば防災拠点という話が出れば、統合するにあたってもっと防災に強い学校を新しく建てるといった方向性もでてくると思います。町財政の話の中でも、校舎を更新していくのであれば、その計画も先送りするのではなく考えていかないといけませんし、そのような話がこの委員会の中で出てくることも想定しております。

(登井委員長)

ありがとうございました。ほかに何かご意見ございませんか。

(井口委員)

問2は小学校区で区切っていますが、古い人でしたら「浅川小学校区だった」という人もいらっしゃると思います。旧町でくくったらすぐわかりますし、旧小学校区を入れるのもいいかもしれません。

(事務局・森崎教育次長)

ここでも注釈がいるかもしれませんね。

(井口委員)

年代でしたら、これから海陽町に住み続ける人でしたら10代や20代の人をもっと割り当てを多くして、例えば30代、40代、保護者の意見としてとらえる人もいらっしゃると思いますので、この割合をもう少し考えてもいいのではないのでしょうか。

(事務局・安孫子)

一応、人口比率に合わせた無作為抽出を考えています。統計の原則から考えた場合、変えない方がいいのではないかと思います。

(井口委員)

地域でも想いは変わってくると思います。海南の人・海部の人・穴喰の人でも、想いはばらばらかだと思います。

(事務局・森崎教育次長)

そのために、無作為抽出があります。統計的な有効性は、全体的に1割と考えています。この想いが逆に偏った形になってしまうといけませんので、統計的に処理されればと思っています。先ほどおっしゃっていた区域と地域の校区は、少し注釈があった方がわかりやすいですし、取り入れたらいいかなと思います。配布数については、やはり統計的にみた有効数がみやすいのかなと思います。

(事務局・三浦教育長)

例えば、海部地区の保護者・海部地区の住民の方といったように、どういう想いがあるのかは、クロス集計をすることで伝わるのではないかと思います。これから保護者になる年代層ともうすでに保護者を卒業した年代層の考え方というのは別で示すことができます。

(登井委員長)

抽出は無作為ということでご理解いただけるとありがたいなと思います。他にありませんか。是非アンケートで聞いてみたいことなどありませんか。

#### 議事4 その他（今後のスケジュール）

(登井委員長)

それでは最後に、全体を通して質問・ご意見ありませんか。

(事務局・森崎教育次長)

アンケートの方は、先ほどご意見いただきましたので、教育委員会の中でも検討して、出来上がったものを委員の方に郵送で送らせていただきます。内容を確認していただき、ご意見があるようでしたら事務局に連絡をお願いします。

早急に作成しまして、委員の方に送らせていただきます。

(福田委員)

アンケートの構成についてですが、大項目1「あなたご自身についておたずねします」、大項目2「学校との関わりについておたずねします」、大項目3「学校についておたずねします」となっています。ここは学校のあり方検討委員会ですので、大項目3に「学校のあり方」という文言を入れるなど、もう少し考えた方がいいのではないのでしょうか。

(事務局・三浦教育長)

皆さんには訂正されたものが届くと思いますが、確認していただき、ご意見があれば事務局の方に連絡をいただけましたら助かります。

(事務局・森崎教育次長)

学校のあり方検討委員会の策定スケジュールですが、本日アンケートの中身についてご議論いただきましたが、これは当初の予定よりも一つ前倒しにさせていただいております。

次回は第4回の委員会になりますが、8月を予定していますので、よろしくお願いいたします。